

福島市長さんが来てくださいました

5月12日(金)、児童福祉月間に合わせて、福島市長さんが清水幼稚園を訪問してくださいました。

そして、図鑑を3冊プレゼントしていただきました。

さっそく『うみ』の図鑑を見て、男の子が「ぼく、おさかな大好き！」と目を輝かせています。先生が『むし』の図鑑を開きながら、「虫が大好きな人？」ときくと、子どもたちは「はい！」と大喜びです。そして、市長さんが「園庭のドングリの木は、かいてあるかな？」と『しょくぶつ』の図鑑をめくると、子どもたちも一緒になって図鑑に注目していました。

その後、子どもたちは市長さんと一緒に、「はい、ピーチ」と言って笑顔で記念写真を撮り、年長組の子どもたちは、市長さんと一緒にドッジボールをして遊びました。市長さんも子どもたちと同じようにボールを捕ったり、逃げたりして遊んでくださいました。

短い時間でしたが、子どもたちは市長さんと楽しい時間をすごすことができました。市長さんと一緒に来てくださった市役所の職員の方々とも、子どもたちは普段と同じように挨拶をしたり、お話をしたりしていました。誰に対しても、心を開いて明るくかかわることができる子どもたちを見ていて、本当に嬉しくなりました。



避難訓練の大切さ

市長さんの訪問があった日の午後、避難訓練と引き渡し訓練を行いました。「大きな地震が起きて、近くの家が火事になりました」という想定で、室内から園庭に避難する訓練です。今年度初めての避難訓練なので、地震や火事などが起きたら、先生の方に集まること、先生のお話を黙って聞いて逃げることなどを、事前に各クラスで確認をし、練習をしてから、避難訓練に臨みました。

実際に避難の放送が入ると、「本当に火事なの？」とか、「僕のお父さん大丈夫かな・・・」と不安そうに心配する子もいました。また、子どもたちの中には、「避難訓練」ということの意味がよく分からない子もいたようです。まだわずか4歳と5歳、6歳の子どもたちですから、それも当然です。

地震や火事の恐ろしさや避難訓練の大切さは、自然に身につくものではありません。それは、何度も経験し、教育され訓練されなければ身につかないと言われています。

よく言われるように「天災は忘れた頃にやってくる」ものなのだと思います。命の大切さや命を守る行動については、日々の生活の中で繰り返し丁寧に教えていきたいと思っています。

